

昭和五十六年七月招集

第三回館山市議會臨時會會議錄

館山市議會



# 目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	二
開會	二
議長の報告	二
議案の配付	二
會議署名議員の指名	二
会期の決定	二
議案第四十三号	二
提案理由の説明	三
神田 守隆君の質疑、当局の応答	五
古賀礼四郎君の質疑、当局の応答	六
委員会付託の省略	七
採決	七
議案第四号	七
説明	七
委員会付託の省略	七
採決	八
閉會	八

一、昭和五十六年七月二十日（月曜日）午前十時  
二、館山市役所議場

## 一、出席議員 二十五名

一 番 神田 守隆	二 番 石井 謙
四 番 横溝 功	五 番 福原 勲
七 番 古賀 礼四郎	八 番 石井 昌治
九 番 松下 正己	一 番 林 豊
二 番 栗原 一雄	三 番 近藤 好雄
四 番 渡辺 昭夫	五 番 伊藤 幸太郎
一 番 押元 稔	七 番 黒川 平治
一 番 流山 源次郎	九 番 石井 輝久
二 〇 番 石井 武敏	二 番 藤田 益治
二 三 番 菊井 敏博	二 四 番 和田 一郎
二 六 番 伊賀 多朗	二 七 番 石井 正
二 八 番 安澤 徳順	二 九 番 安西 益男
三 〇 番 山口 康	

## 一、欠席議員 二名

二 一 番 吉田 勇治郎	二 五 番 五十嵐 昇
--------------	-------------

## 一、出席説明員

市長 半澤 良一	助役 小倉 澄男
収入役 太田 博雄	市長公室長 斎藤 武男
総務部長 石田 雄一	教育委員長 吉田 政弘
教育委員長 安田 豊作	
一、出席事務局職員	
事務局長 高尾 豊	事務局長補 熊谷 吉雄

書 記 兵 藤 恭 一 書 記 鈴 木 哲  
書 記 石 井 一 夫 書 記 嶋 田 範 夫  
一、議事日程

昭和五十六年七月二十日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 議案第四十三号 工事請負契約の締結について

日程第四 議案第四号 農業委員会の委員となるべき学識経

験者の推薦について

開 会 午前十時十五分開会

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十五名、これより昭和五十六年第三回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

### 議長の報告

○議長（林 豊君） 本臨時会議案審議のため、地方自治法第二百一十一條の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので御了承願います。

なお、市長から地方自治法第八十條の規定による専決処分が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

### 議案の配付

○議長（林 豊君） ただいま市長から議案並びに説明書の送付が

ありました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。

配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

### 会議録署名議員の指名

○議長（林 豊君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。七番議員古賀礼四郎君、二七番議員石井 正君、以上両君を指名いたします。

### 会期の決定

○議長（林 豊君） 日程第二、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき、議会運営協議会の意見は、本日一日とすることでありませう。

お諮りいたします。会期を本日一日と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって会期は本日一日と決定いたしました。

### 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第三、議案第四十三号工事請負契約の締結についてを議題といたします。

### 提案理由の説明

○議長（林 豊君） これより提案理由の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 本日、ここに急遽第三回市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆さま方におかれましては御多忙の中を御出席賜り、誠にありがとうございます。

今回、急施を要する案件として御審議をお願いいたします案件は、一般議案一件であります。

議案第四十三号工事請負契約の締結について御説明申し上げます。館山市立第三中学校校舎増築工事に係る指名競争入札において落札に至りませんでしたので、最低の価格をもって入札をした者から見積書を徴した結果、一億千八百五十万円をもって、鹿島建設株式会社と随意契約により工事請負契約の締結をしようとするものであります。

工事内容といたしましては、現在の運動場寄り校舎東側に鉄骨耐火づくり三階建て、延べ六百六十三平方メートルの普通教室六室を増築しようとするもので、工期を翌年一月三十一日までとするものであります。

以上、提案理由について御説明申し上げましたが、急施を要するものでありますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 以上で提案理由の説明を終わります。

#### 質 疑 応 答

○議長（林 豊君） これより議案の審議を行います。

議案第四十三号工事請負契約の締結について御質疑をお願いします。

○一番（神田守隆君） 提案説明によりますと、GSKシステムによる鉄骨耐火づくり三階建てということで、GSKの工法ですか、これによったということですね。これは従来までの建物がそういうふうになっているというところで、それとの関連もあろうかと思えますので、一点質問したい点は、GSKシステム以外の工法でやるということについての検討はなかったのかどうか。しなかったとすれば、その理由についてお聞かせを願いたいと思います。

それと、第二点は、三回の入札を行ったそれぞれの最低の入札者がたれてあるか。

それから、三点目は、普通教室を六室増築するということがありすけれども、生徒数が相当にふえるということだと思んですが、現在のはどのように生徒が——現在でもおそらく足りないのではないかと思うわけで、現時点ではどのような工夫をされておるのか、その点をお聞かせ願いたいと思います。

○教育長（安田豊作君） GSKシステムによる鉄骨耐火づくり三階建てにした理由といいますか、普通の鉄筋コンクリートによる増築の検討をしたかどうかという問題でございますが、全然しなかったわけではございません。考えてもみましたけれども、神田議員さんのおっしゃる通りに、GSKシステムで統一して校舎を建てていくというもとの考え方があったということが基本的にあります。

それから、検討したかどうかという問題については、質問の基礎には地震による被害があったんで変えなやかという意味だろうと思えますけれども、それは、いままでの全員協議会その他で御

報告申し上げましたように、GSKシステムによる建築によって、地震によっては問題をない、構造的には問題ないという考え方に立ちましたので、当初の計画どおりGSKシステムによって統一した建物として建てていきたい、こういう考え方によったわけでございます。

第三点の、現在どうしているかという問題でございますが、現在では普通学級二十二学級でございます。それに対して普通教室十八学級ですから、四教室不足でございます。この四教室の不足については――御承知と思いますが、コモンスペースといまして、具体的には玄関の上、二階を三教室仕切りまして、三教室つくりました、広さは普通教室と同じ六十六平米の広さがとれるわけでございますので、それと特殊学級の教室を一教室使用しております。特殊学級というのは生徒数が少ないので、家庭科準備室三十三平米を使用しております。

○総務部長（石田雄一君） 二点目の質問でございますが、入札三回におきます最低の業者名でございますが、三回いづれとも鹿島建設株式会社でございます。

○一番（神田守隆君） 統一して建物はGSKシステムでやるんだということですが、やはり地震による被害が現実にあったわけで、その後の調査の結果、地震による耐震構造上の問題はなという結論を得たということですが、地震に対する対策というのは現在の技術水準そのものが地震に対する対応が十分しきれないというよりなそうした問題点もあると思うんで、そうした点で新しい工法というのは、やはり予期し得ないいろいろな問題点を持っているわけで、私はまだまだ不安を感じないわけに

かないわけです。

あの地震のときに、新しいシステムによったところだけがそうした被害があったということで、ほかの鉄筋校舎については何らなかったわけですから、やはり十分そのらの検討はされてしかるべきだったんじゃないか。文部省の調査が入って、その結果、文部省の調査結果でそれを信ずるんだということでしかないので、なかるうかと思えますけれども、そのへん私はどうしても十分納得をしないわけで、これは意見にわたるわけですけれども、地震についてはもう万全であるということで、太鼓判を押してもいいんだというふうにお考えで、また父兄の方にもそういうふうに自信を持って言えるものであるかということでお答え願えるか。

それと、四教室も不足しているということですね、現時点でも六教室分ふやすということですが、これだけ不足するといろのはもっと早い時期に――と言うのは、当初の建設の時期におそらくその数字がわかったんじゃないかなるうかというふうに思うんですけれども、そのへん少し御説明願いたいと思います。

当初の建設計画ではなくて、増築としたのは、生徒の増員が当初の見込みと大幅に違ったのかどうなのか、そこらへんの御説明をお願いしたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 第一のGSKシステムによる地震被害についての考え方でございますが、前にも御報告申し上げましたが、県教育委員会を通して文部省と協議の結果、公文書で回答がきておりますが、その中でGSKシステムは学校建築としてすぐれた建築システムであるということが前置きされて、しかしこのシステムは開発されてから日が浅いので、内装材の処理方法等細部に

つては改善の必要があることは認める、ということでございます。ただし、構造体については設計震度〇・三層間変位二百分の一以内で設計されているというところでありまして、私実際に設計してあるGSKの本部に行つて聞きましたが、現在——もとの建築設計の場合は〇・二で許可されておつたそりです。それをGSKは〇・三でやっておるんで、〇・二とか——専門用語で、私は受け売りしかできませんけれども——〇・二の設計の建物については、十勝沖地震でみんなつぶれちゃつた。それで五十六年六月一日から建築基準法が改正された。改正されたけれども、従来のGSKの〇・三層間変位二百分の一以内の設計ならば、改正された建築基準法を上回る設計になっているんだ。こういうことから地震については心配はないんだ。ただし、内装材の処理等、細部についてはなお改善の余地があるということで、これは文部省から十分な通達をもらつてあるので、それについては十分気を付けるといふことでしたが、今度増築についても設計者からの設計についての回答をもらつておりますけれども、その分については目地を入れるとか、そういうことで十分、内装材の処理については十分なる処置をしてある、こういうことで設計されて、増築を考へております。

それから、一昨年ですか、建てる時点で教室の予想は立たなかつたのかということでございますけれども、これについては学級数は予想できませんでした。できましたけれども、建築については国の基準というものがありません、その基準に沿つて標準面積というのがあるわけでございますが、その標準面積のところと普通教室は十八教室しかできないという計算になつたわけです。

それで、先を見越して、五十七年度になると六学級不足という事態になるから、ここで六学級増築ということを考えれば丸々補助金がもらえるという立場に立つたわけです。補助金がつかないということは起債もつかないという結果になりまして、その分全部足りるように建てるためには市の持ち出しが非常に多くなる。それでも授業ができないうちの状態なら困りますけれども、設計的な図面を見ますと、現在の状態のように、さつき申し上げたやうな状態で、普段の授業に差し支えないやうなことでしのげるといふやうなことで、今回の増築ということをお願いしているわけでございます。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ございませんか。

○七番（古賀礼四郎君） 私、別の観点から教育長にお尋ねしたいと思ひます。

一中、二中、三中という学校があるわけで、三中だけが来年度がふえるわけではないと思ひます。大体ひのえうまの子が中学校三年生で、ことしが少くないわけですね。来年は各校とも多くなる、ピークがくる。その後はまた減つてきます。この際三中を六教室ふやすよりも、まだ二中が余つてゐると思ひます。二中の西岬中との統合問題を片づけてから、それからなさつたほうがいいんじゃないかと思ひます。

三中だけが人数がふえるわけじゃないし、三中だけが教室をふやして、二中は西岬からくるのを待つていて空いている。その教室をお使いになつたらいいんじゃないか、統合しない前に。教育のレベルは一中、二中、三中、全部同じだと思ひますから、三中は何も教室をふやさなくても、二中を一時使つていても教育はで

きると思います。その点いかがでございますか。

○教育長(安田豊作君) いま二中が余っているから、一年だけそれを使っていたらいんじゃないかというのですが、三中の例を申し上げますと、三中は現在二十二学級でございます。それから二十四、それから二十六学級、二十五学級とずっと同じような人数で三中としては続くわけです。ですから、一年だけというわけにはいかないということが一つ。

第二が、三中の学区を切って、二中が余っているんだから二中のほうにくっつけたいんじゃないかという、こういう考えもあると思いますが、学区の編成ということは、いま統合でいろいろ問題を持っていますけれども、それと同じように、小学校の学区を一部分切って違う中学に行く――よそのほうを調べてみますと全然ないわけではありませんが、非常に難かしい問題があるわけで、この学区の編成は小学校を二つ合わせて一つの中学、三つ合わせて一つの中学というように、小学校の学区と中学校の学区とを共通させていくというような考え方に立ってあるという、そういうことから学区の変更というのはかなり難かしい問題があります。

皆さんがフランクな考え方で、父兄の皆さんが自由に――お前こだけ切って二中へ、また三中へ戻ってくるというようなことができればいいんですが、なかなかそのへん難かしい問題があるので、小学校の学区と中学校の学区を同じいままでのままでいくと増築になる、こういうことでございます。

○七番(古賀礼四郎君) 考えますと、ちょっと不経済な感じがするわけです。建前だけで、学区が決まっているから片っぱをふや

し、片っぱは余っているという、もっと円滑な運用を全般的に考えなければいかぬと思うわけです。

さっき、お答えで、補助金がつくことをおっしゃいましたから、あまり市費が出ないんでよろしいことはよろしいですが、けれども、ほかの一中や二中、これは将来ともどうなっていますか。学級をふやすという計画はあるんですか。

○教育長(安田豊作君) こまかい資料を持っておりませんけれども、私の記憶では、現在の教室数で間に合うというように記憶しております。

○七番(古賀礼四郎君) そうすると、三中の学区だけが人数が急にふえるというわけではないんですね。一中、二中の生徒も五十七年度一番ふえますね。ほかのところは何とか入るわけですか。

○教育長(安田豊作君) そりです。

○七番(古賀礼四郎君) それではよろしいと思います。大体わかりました。

ですけれども、何か鉾山市全体の中学校の教育レベルというのは、一中、二中、三中とも同じでなければならぬと思うんです。将来学区によって差がつくというのはいけなしいと思います。ひとつ十分な内容の研究と今後の生徒の増加というものをバランスをとって適正なる運用をやっていたきたいということを要請して終わります。

○議長(林 豊君) 以上で七番議員君の質を終わります。

他に御質をございませんか。――御質をなしと認めます。よって質を終わります。

委員会付託の省略



○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することと御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

### 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第四、発議案第四号農業委員会の委員となるべき学識経験者の推薦についての議題といたします。

本案は、地方自治法第一百七十七条の規定により、近藤好雄君、押元 稔君の一人上に関する案件でありますので、退席を求めます。

（一二番議員近藤好雄君、一六番議員押元 稔君退場）

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

### 議 案 の 内 容 説 明

○議長（林 豊君） 提出者の説明を求めます。御登壇願います。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 発議案第四号農業委員会の委員となるべき学識経験者の推薦について提案理由を御説明申し上げます。

選考の経過等詳細につきましては省略させていただきますが、お手元に配付のとおり秋山萬次君、押元 稔君、近藤好雄君、庄司恒治君を最適任者と認め推薦いたしたく、七名の賛成者を得まして本案を提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終わります。

### 委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することと御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

### 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

(一三番議員近藤好雄君、一六番議員押元 稔君入場)

閉

会 午前十時四十四分開会

○議長(林 豊君) 以上で本臨時会に付議されました案件は議了されました。よって、これにて第三回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

- 一、会議録署名議員の指名
- 一、会期の決定
- 一、議案第四十三号
- 一、発議案第四号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

林

豊

館山市議會議員

古

賀

礼

四郎

館山市議會議員

石

井

正

